

(第4会場：2F自由研修室)

■司会 熊田 光男 <高知県> 東津野村教育委員会 社会教育課係長

芦村 伸也 <熊本県> 熊本県教育庁玉名教育事務所 社会教育主事

5.19

1. 有明佐賀航空少年団「心の成長プログラム」

13:30~13:55

ー親切・勇気・礼儀・感謝をいかに育むかー

横尾 寛二 <佐賀県> 有明佐賀航空少年団 幹部団員

(財)日本航空振興財団を母体とし地域・後援会・ボランティアの支援による古くて、新しい「第三の少年教育の場」を模索する事業である。活動の範囲は有明佐賀空港を中心とするが、参加者は佐賀県内外から募集している。活動の内容は子どもたちの心の成長に焦点をあて、親切、礼儀、勇気、感謝など徳に関する指導を重視している。初年度の参加者は49名、平成13年度は60名、年6回の活動を予定している。

2. 自宅開放型「よろず相談・学習会」：「座・いきだよ会」の28年

13:55~14:20

正 <にかく大分県> 座・いきだよ会 主宰

「座・いきだよ会」は、地域の人々に自宅を開放した「よろず相談・学習会」を始めて28年の歴史を積み重ねてきた。幼児から高齢者まで来訪者はあらゆる年齢層に亘っている。相談・学習が目的としてきたところは「自己の発見」であり、ボランティアを始めとする様々な活動への積極的な参加である。相互学習と参加者の交流はいじめによる不登校の解決など具体的な成果を生み出している。

~ ティータイム ~

14:20~14:55

3. 飯干太鼓アラスカ演奏交流 -13人の子どもたちの挑戦-

14:55~15:20

椎窓 猛 <福岡県> 矢部村教育委員会 教育長

飯干太鼓のアラスカ渡航体験は「出会いの縁」を生かした13人の子どもたちの奮闘記である。出会いを生かすことが出来たのは、矢部村飯干小学校の13人の子どもたちの太鼓の実力である。指導者は地域に伝わる歴史の伝承を掘り起こし、太鼓のリズムに翻訳してそれぞれに異なる13人の子どもたちに上手に持ち分を配分した。練習の甲斐あって、太鼓は一定以上のレベルに達し、内外の訪問者を一様に感動させたのであった。最終的にはアラスカとの縁が実り、村の財源獲得の奮闘も実って、アンカレッジのサンドレーク小学校他への訪問が実現した。矢部村の子どもたちが異質の文化に飛び込み数日を経て、その異質を学習し、異文化になじんでいく過程はまさしく国際交流の不思議と秘密を十分に物語っている。

4. 日豪山村ホームステイ交流による国際理解学習の衝撃効果

15:20~15:45

向野 茂 <大分県> 院内国際交流会 副会長

1992年以来、活動の基礎組織である「院内国際交流会」の会員が順次オーストラリアのFalls Creek小学校へ日本語教師として赴任。1998年より相互に教育交流団を送る。目的は日豪ホームステイ交流と小学校での共同学習。ホームステイ交流はホストファミリーの創意・工夫で多種多様。オーストラリアの先生方も町内の小学校で教壇に立つなど受け入れ側の対応も多くの実験を含んでいる。成果は、ホストファミリー及び子どもたちの国際理解の推進、英語学習への関心の増大、課題は、ホストファミリーを志願する家族数の拡大、訪豪グループの引率要員の確保である。

5. 総括討論

15:45~16:15

6. 特別報告(4F大研修室)

「生涯学習実践研究20年の総括」～日本文化における知的風土の変革～

三浦清一郎 (社会教育・生涯学習研究者)

16:30~17:00